

四国がんセンター



四国がんセンターは、道後温泉で有名な愛媛県松山市にあります。

前身である国立松山病院は明治22年に旧陸軍病院として設置され、昭和22年12月に厚生省に移管されて設立されています。四国がんセンターとしては昭和41年国立松山病院に「四国がんセンター」が併設され施設整備が行なわれたのが始まりです。昭和54年に国立病院四国がんセンターと名称変更されました。平成14年3月には全国で最初の地域がん診療拠点病院の指定を受け、平成18年4月に松山市の中心部堀之内から現在の南梅本町に新築移転となっています。翌年の1月には愛媛県がん診療連携拠点病院となり、愛媛県地域がん登録室（愛媛県委託）が設けられております。さらに平成23年4月には臨床研究部が臨床研究センターに昇格、平成25年6月には患者・家族支援センター「暖だん」が併設され、現在に至ります。

【松山市の端っこ】

平成18年4月に施設の新築移転に伴い松山市堀之内から松山市南梅本町に移りました。住所からお解りのとおり、移転前の松山市堀之内は市の中心、松山城の堀の内側、まさにお城下でした。対して南梅本町は松山市の端っこ、松山平野のやや奥まったところ、扇状地のちょっと上の方、風光明媚な環境です。かつて、都会人を自負していた職員はカルチャーショックを受けたとか？

【病院概要】

病床数は368床、標榜診療科は20診療科です。

放射線機器は、リニアック、RALS、PET-CT、CT、MRI、一般撮影装置、X-TV、Angio-CT、乳房撮影装置、ポータブル、外科用イメージなど。又、FDG製造のためのサイクロトロンを始め合成装置等を有しています。

【放射線技師概要】

放射線技師数は 24 名、男性 21 人、女性 3 人。

年齢分布は平成 30 年 9 月現在、50 才代 3 人、40 才代 5 人、30 才代 6 人、20 才代 10 人、とピラミッド型。年齢の幅も広いですが、毎日の朝会、定期的に行なわれる勉強会を通して情報共有、意思疎通をはかっております。

がん診療拠点病院の技師として患者の皆さまにより良い医療サービスを提供し、がん征圧という大きな目標を達成するためにがんばっています。